



社教NFTかわら版

中部教育事務所社会教育だより(NFT=network・footwork・teamwork)

中部教育事務所第7号
平成25年12月5日
主任社会教育主事
安部亮太郎・山崎 蘭

♪中部教育事務所管内の社会教育情報を発信します♪



取組の紹介



四万十町に広げよう～本の世界と子どもの笑顔

四万十町では、7月から「四万十町子ども読書活動推進計画策定委員会」を発足しました。

様々な分野で四万十町の読書に関わっている方々8名が委員となり、「四万十町に広げよう本の世界と子どもの笑顔」というテーマを共有しながら、推進計画の策定をしています。

10月の4回目の策定委員会の保・小・中・高・保護者のアンケート結果を受け、「第2章子どもの読書活動推進のための取り組み」まで進みました。あと、2回の委員会で計画が完成し、四万十町に読書の風が吹くように準備をしています。

第1章

四万十町子ども読書活動推進計画の基本的な考え方

第2章

子どもの読書活動推進のための取り組み

第3章

推進計画の実現に向けて

“四万十町をどんな読書の町にしたいですか？”

林委員長

図書館を中心にした子どもの図書文化が目に見えて素晴らしいね！と言われることができる町に！

長木司書さん

いつでも誰でも気軽に本を手にとれる町に！生活の中に本が入っているのが当たり前！

渡邊副委員長

読み聞かせの輪が広がり楽しく交流しあえる町に！

この会の感想は？



「事務局がすごく頑張ってくれているお陰で町としていいものができると思う。また、いろんな人が入り込んでいるのがすごい。」

県生涯学習課

吉岡さん

子どもがあらゆる場所でいつでもどこでも本に触れていられる町に！

事務局

西村さん

小さい子から大人まで読書の輪を広げ、みんなが読書を好きになる町に！

ここまで大変だったことは？

「アンケートの集計です。」



謝肉祭で村が元気に！

11月3日に大川村で第30回謝肉祭が開催されました。
当日は小雨が降る中でしたが、参加した皆さんはおいしい大川牛を焼きながら、大川村の取組を見ることができました。

青年団の方に聞きました!!

謝肉祭の始まったきっかけは？

- ①村の農業集団を復興させるため、
 - ②青年団が活動していることを証明するため、
 - ③村の畜産復興のため、
- 1983年に始められました。
第1回は村民400人でスタートし、今年で30回目を迎えました。

今年の参加人数は？

今年は約1500人の参加で、これは村民の約3倍！



今年準備した肉は何頭分？

4頭半!!

テントを立てたり、ドラム缶やテーブルや椅子を並べたりといった会場準備と、肉や野菜を切ったり、タレや竹食器を作ったりの準備がとにかく大変です。
人が少ないので村民が一丸となって準備しています。

謝肉祭で大変なことは？

謝肉祭をやって良かった、楽しかったと思うことは？

毎年、大川村の山奥に村外・県外からたくさんの方に来ていただき、リピーターも非常に多いことです。
「お肉が美味しかった、楽しかった！」と喜びの声を聞くことができ、うれしく思います。チケットが完売した後も「行きたかったのに。」と言われてもらったり、お客さんが楽しく飲んで、食べているところを見ているとこちらも楽しくなります。
ふだん静かな村の広場がにぎやかになるのはすごいことですね。今では、「大川村といえば謝肉祭しゅうところやろ？」と言っていたみたいです！

来年に向けての抱負は？

来年以降も来ていただいた方に、来て良かったと喜んでもらえるように頑張りたいです。マンネリにならないように改善をしながら、人口が減っても継続していきたいです。



400年の伝統がある「大川村・花取り太刀踊り」は昭和53年に高知県無形文化祭の指定を受けた踊りで「日本刀を手にした男子の踊り」「なぎなたを持った女子のなぎなた踊り」「手踊り」の3つがあります。
村の花取り太刀踊り保存会のメンバーは30名で、昔からの伝統を受け継いでいます。
子どもたちにも、村の伝統芸能を伝承する仕組みができていて、月に1回「大川っ子なかよしルーム(放課後児童クラブ)」や学校の授業(5回程度)で保存会の方々に来てもらって、練習を重ねました。

今回は四万十町と大川村の取組を紹介しました。取材をして感じたことは、どちらも本当に我が町・村を愛し、その思いを一生懸命表現しているということでした。本当に素敵な取組ですね。
(山崎)

連絡先: 高知県教育委員会事務局中部教育事務所
TEL 088-893-6166 FAX 088-893-6167
E-mail 310305@ken.pref.kochi.lg.jp
担当: 安部・山崎

